

ピケティさんの資本論と格差解消

ピケティさんは『 r （資本収益率） $>$ g （経済成長率）』の状況は今後も続き、お金持ちとそうでない人の格差は一層拡大する」、課税逃れを許さないために「格差解消には世界各国が同時に資産課税を強化しなければならない」と著書「21世紀の資本」の中でおっしゃっています。案の定、パナマ文書がお金持ちによるタックス・ヘイブンへの資産移転を明らかにしたことから、お金持ちに対する怒り（やっかみ）が増大しているところです。

しかしながら、資産課税強化なんて、マイナス金利になっても銀行預金するしかない庶民とは関係の薄い話で、ポートフォリオとかを考えなければならない資産を持つ層の話です。ピケティさんの格差問題はお金持ちの中での格差であって、今、世界が考えなければならないのは、貧困の撲滅、実質経済成長率をどう上げるかでなければなりません。

r （資本収益率）の現状

貴族や荘園領主が土地を持っているだけで地代収入が得られた封建時代とは違って、今は資産を維持するのが難しい時代です。日本でも相続税等で三代も経てば資産が消えてなくなると言われています。企業も100年間存続することは難しいとされています。

現代の資産は何かと言えば、お金・預貯金、土地・建物、株式・債権、貴金属等です。例えば、あなたが、突然の僥倖で10億円を相続できたとして、あるいはあり得ない話ですが担保なしで10億円借金できるとして、ゼロ・マイナス金利の時代にあって減らさずに増やすために何に投資されますか？金額が100億円だったとしても同じことで、如何に難しいか容易に想像がつくと思います。高収益の企業であっても、投資先が見つからず内部留保を増やしたり、海外での稼ぎは留め置いたりしています。実物資産への投資から収益を得ることは難しい時代です。ピケティさんが言うような4～5%の確保が難しい時代です。

必要な g （経済成長率）の引き上げ

格差解消には、中産階級の層を厚く豊かにすることです。いくらお金持ちだと言っても、消費できる金額はたかが知れています。日本の富裕層でも税金対策で、高級車やヨットを買うことが流行していると聞いたことがあります。そうそうに何台も買うわけにもいかないでしょう。土地や預金に回れば、使い道が無く死蔵されることになります。

政府・中央銀行がマネーサプライを増やしても2%のインフレ、3%の経済成長が達成できないのは、消費が期待される層にお金が回っていないということでしょう。

消費を拡大するには、やはり、中産階級を増やし、購買力をつけるしかないと考えています。豊かな中産階級にするには売れる商品や付加価値のとれるサービスを提供し、その購入、利用頻度を増やさなければなりません。

ということで、最後はお決まりのイノベーションしかないということになりました。